



後期のスタート、芸術鑑賞・生徒会リーダー研修



後期がスタートして2週間余が経ちました。後期始業式では、日本人では5人目となるノーベル医学・生理学賞が決まった「京都大学 特別教授 本庶 佑先生」を紹介しました。ガンという病気の治療法として、これまでは「放射線・手術・抗がん剤」の三つが主とされてきましたが、それと異なる「免疫で治すこと」を考えその薬の有効性が認められたということです。記者会見で何度も発言されたのが「信じない」という言葉、「教科書に書いてあることを信じない、常に疑いをもち本当はどうなっているのか、という心を大切にする」という意味です。これは、課題意識や知的好奇心と言い換えることもできます。9月に本校は研究発表会を開催しましたが、「4人グループの学び合い」では、まさしく課題意識や知的好奇心をとても重要視しています。

学習もスポーツも行事も深まっていく秋の時期、課題意識や知的好奇心が行動への「第一歩」です。学力面でもスポーツ面でも豊かに伸びていくことを期待します。

なお、中体連新人大会、惜しい試合「もう少しで筑前大会」が多かったようです。でもこの「もう少し」をどのくらい悔しく思うか、また、今日からの練習に結びつけることができるか、ココが重要です。夏の大会に向けての飛躍を願っています。



【9/27 選手激励会】



★ 10月19日（金）芸術鑑賞

文化発表会の一端としての芸術鑑賞です。昨年度は「パントマイム」、本年度は「文化庁：文化芸術による子供の育成事業」に応募し、「ナチュラルダンステアトル」という団体を招き、作品「さーかす」を披露していただきました。「主人公は一郎。自分のやりたいことが見つからないでぐだぐだ過ごしていたある日、『昭和のサーカス団』が現れます。戦後の貧しかった頃を一生懸命に生き抜いた『サーカス団』が一郎の心に生きる力を吹き込んでいく」というストーリーで、これが光と音楽、現代的なダンスで見事に表現されました。6本の高いトラスが立った体育館は本格的な舞台の雰囲気があり、テレビの画面とは違う、ダンサーの皆さんの息づかいや空気の動きまでを感じることができました。「人間にとって大切なことを想像力の豊かな感性で受け止め、感動的な瞬間を分かち合おう」、「ナチュラルダンステアトル」からのメッセージです。生徒の感想を紹介します。



- ずっとこのダンスを見ていたくらい、楽しい時間でした。（1年生）
- 迫力あるダンスですごく楽しかったです。先生方が登場したのもびっくりでした。（2年生）
- すごく楽しい時間でした。このようなものは普段見ることはないし、まして、今の時期は特に見ることはありません。受験勉強で一杯一杯の時期だったので、良い思い出になりました。舞踊団の皆様には感謝しかありません。（3年生）
- とても楽しかった。ダンスに参加して、最初は恥ずかしかったけどだんだん楽しくなってきました。みんなと踊れてよかったです。良い経験になりました。これからの生活で、いろいろなことに積極的に挑戦していこうと思いました。（3年生出演生徒）



【最後は代表生徒も一緒に…】

★ 10月3日（水）生徒会リーダー研修



生徒会選挙や学年内選考によって、新生徒会役員・専門委員長が決まりました。当日は早速の研修会で、講話やアイスブレイキングの後、生徒会執行部の考える目指す学校・生徒像、それに対するスローガンなどを協議しました。やる気満々、明るい表情で積極的に活動する姿がありました。



新生徒会には、「初心忘るべからず」の下、生徒会活動の「バージョンアップと重点化」、「新しいアイディア（創意工夫）」、「生徒会活動・全体構想図の作成」をアドバイスしました。「良き循環・良き伝統」となった生徒会活動を信頼しています。

<第34期生徒会役員>

